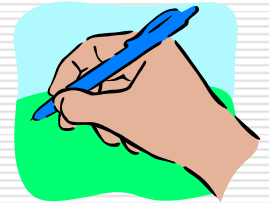


国際交流基金関西国際センター日本語教育研修会
2011年1月14日(金)17:00～19:00

国際交流基金教授法シリーズ第8巻

『書くことを教える』



～コミュニケーションとしての書くことを考える～

(独)国際交流基金日本語国際センター
専任講師 金 孝卿
Hyogyung_Kim@jpf.go.jp

国際交流基金日本語教授法シリーズ



『書くことを教える』ひっじ書房

全体の構成

1. ふり返る

- ・日常生活での「書くこと」
- ・日本語授業での「書くこと」

2. 指導のポイントを考える

- ・表現・文型、書きことばのスタイル、段落・まとめり
- ・構成、読み手、書くプロセス

3. 活動や授業を考える

- ・多様な活動と授業デザインの例

4. 評価を考える

- ・作文の添削、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

はじめに

* そう思う・そうだ(○) * そう思わない・そうでない(×)

- (1) 会話能力がつけば、作文能力もつくと思う。
 - (2) 文章レベルの「作文」活動は、初級では難しいと思う。
 - (3) 私の学生は、作文が嫌いだ。
 - (4) 学生の作文が「おもしろくない」と思ったことがある。
 - (5) 添削したところを、学生が見ていないのではないかと
思ったことがある。
 - (6) 作文の評価(例、添削)は、“日本人教師”がした方が
いい。
-

今日の内容

□ 「書く力」を伸ばすための指導のポイント

(1) 書くことに必要な知識とスキル

(2) 指導のポイント

- ・表現・文型、書きことばのスタイル、文・段落

- ・統制作文 (controlled composition)

- ・自由作文

(3) コミュニケーションを大切にした「書く」活動

□ まとめ・ふり返り

「書く力」を伸ばす指導のポイント

(1) 書くことに必要な知識とスキル

(2) 指導のポイント

- ・表現・文型、書きことばのスタイル、文・段落
- ・統制作文 (controlled composition)
- ・自由作文

(3) コミュニケーションを大切にした「書く」活動

(1) 書くことに必要な知識とスキル

- コミュニケーションとしての「書くこと」
- 「書くこと」に必要な能力

※会場資料のみ

「書く力」を伸ばす指導のポイント

(1) 書くことに必要な知識とスキル

(2) 指導のポイント

- ・表現・文型、書きことばのスタイル、文・段落
- ・統制作文
- ・自由作文

(3) コミュニケーションを大切にした「書く」活動

(2) 指導のポイント(文字)

- 「文脈の中で」、「意味のある」文字を書かせる。
- 学習者の現実の言語生活の中では、
どのような場面・目的で文字を書くのか？

※練習資料は会場資料のみ

- 【質問8】次の(A)～(D)の練習は、それぞれ何を目的にしているでしょうか。

- 文法・文型の定着させるための練習でも、一人ひとりが自分で考えて自分の答えを書けるような質問を出す。

書きことばのスタイル (2) 指導のポイント

- 【質問9】次の文章は、学習者が書いた作文の一部です。直したほうが良い部分がありますか。

私の国は、お茶とかきぬ織物が有名です。

お茶は、けっこういろいろな種類があります。お客さんが来たときなんかは、ちゃんといいお茶を出してもてなします。



□ 文章の種類は何か

手紙、メモ、メール、レポートなど

□ 読み手は誰か

家族、友人、先生、仕事先の人など

文と文のつながり／段落・まとめ

- (A) 接続詞を使って、文を増やす練習
- 【質問13】(B)と(C)の練習は、それぞれ何を目的にしているでしょうか。
- 【質問14】[活動Ⅱ]では、どのような書く力がつきますか。

統制作文 (controlled composition)

□ 書く形式や内容に一定の制限を与えて作文を書かせる指導法

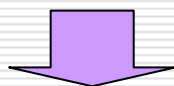
□ 【質問19】次の(A)と(B)の練習は、下の例にあげた表現のうち、どのような表現を学ぶための練習でしょうか。

例) 質問の表現、分類の表現、

原因や理由の表現、比較の表現、意見を述べる表現

自由作文

□あるトピックについて自分が思うがままに自由に書いていい。しかし書くことに慣れていない学習者がいる場合、何を、どのように書けばいいか分からないこともある。



□自由作文の指導のポイント(教師が示すこと)

- ①トピックは何か
- ②何のために書くか
- ③誰に向けて書くか
- ④どの程度(長さ、文体)書くか

・書く目的・内容
・読み手・書き方
・書くプロセス

□ コミュニカティブな課題の設定

【質問30】次のような学習項目で作文を書かせる時、(A)と(B)の課題では、それぞれどんな力を養うことができるでしょうか。

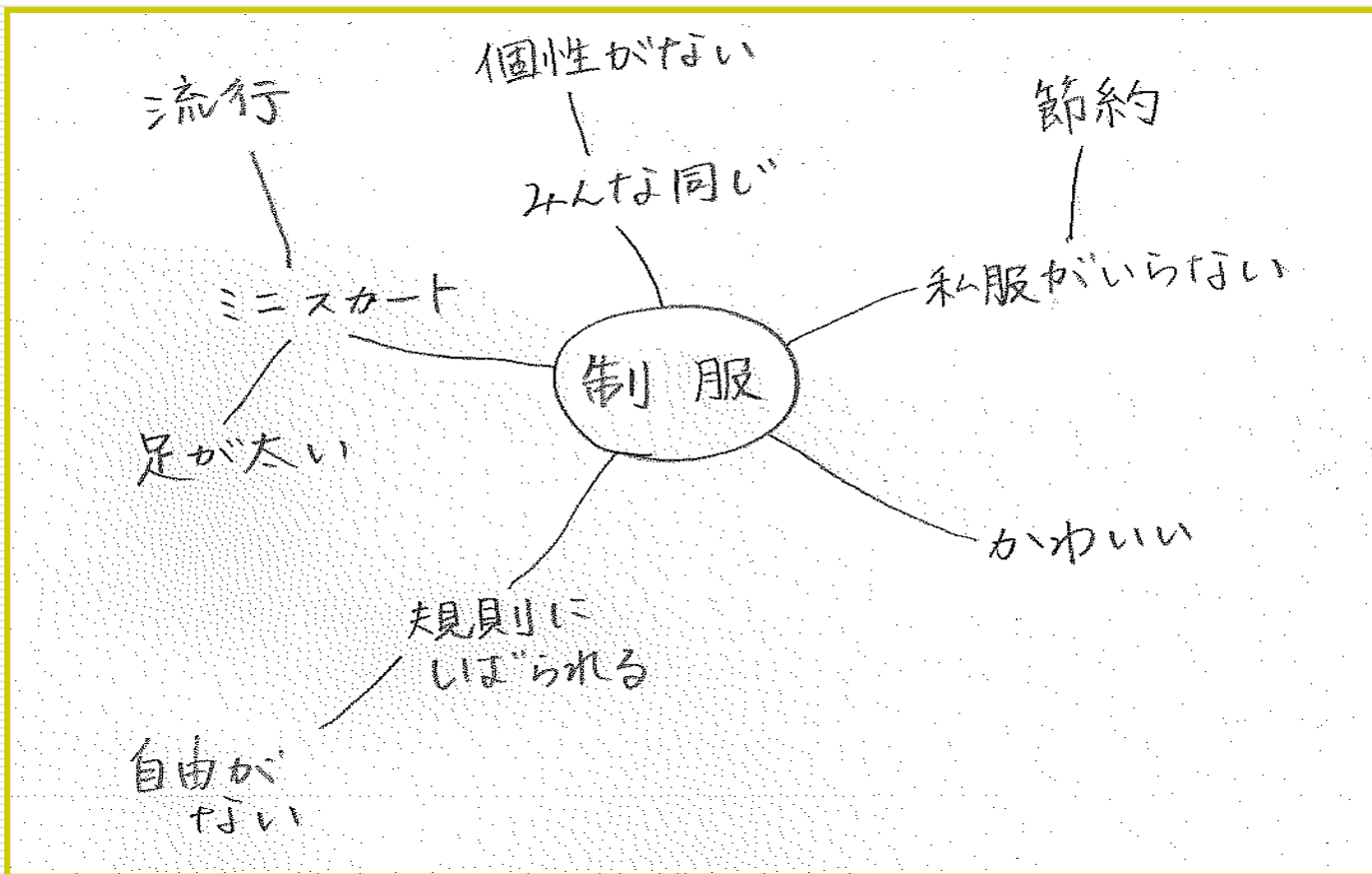
* 学習目標: 自分の町や自国の観光地など、自分が知っている場所について知らない人に紹介(説明)することができる。

課題(A) タイトル:「私の町」
文型: ①～に～があります。 ②まず、次に、それから

課題(B) 日本の姉妹校で、あなたの街の紹介をすることになったそうです。あなたの街に来たことがない学生たちに、あなたの街を紹介してください。もし遊びに来たら、どんなことができるか、400字程度で書いてください。

□ 書く前に、書く内容を考えさせる

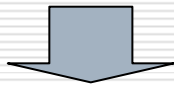
(思考マップの例)



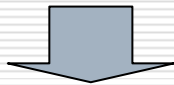
□ 読み手・書くプロセスを意識させる

(学習者同士で読み合う活動)

作文を
書く



ワークシート*を
使って、ピア学習
による活動を行う



書き直す

○手順

(学習者が一度作文を書いたあとの活動)

1. まず、相手の書いた文章を読んで、
①いいと思うところを確認し、②書き手の主張と根拠を理解します。
2. それから、お互いに次のことを話し合います。
①いいと思うところを言う。
②もっと説明してほしいところを言う。
③直したほうがいいところを言う。
④書き手が相談したいことを聞く。
3. 話し合いが終わったら、その内容をもとに、書き直します。

* 李英淑(2008);「ピア推敲」
活動の手順が紹介されている

- トピック、目的、読み手、分量など、課題を明示する
作文の文脈を与えること
- 読み手、書くプロセスを意識させる
学習者同士で読み合う活動を活用する

「書く力」を伸ばす指導のポイント

(1) 書くことに必要な知識とスキル

(2) 指導のポイント

- ・表現・文型、書きことばのスタイル、文・段落
- ・統制作文
- ・自由作文

(3) コミュニケーションを大切にした「書く」活動

(3) コミュニケーションを大切にした「書く」活動

□ 活動例⑥ 初級前半から行える活動(2)

* 学習目標: お店やレストランへの意見・要望を書く

(3) コミュニケーションを大切にした「書く」活動

- 活動例⑥の「お客様の意見」を書く活動を生かして、実際のやりとりに近い体験をさせるとしたら、前後にどのような活動を組み合わせることが考えられますか。

(3) コミュニケーションを大切にした「書く」活動

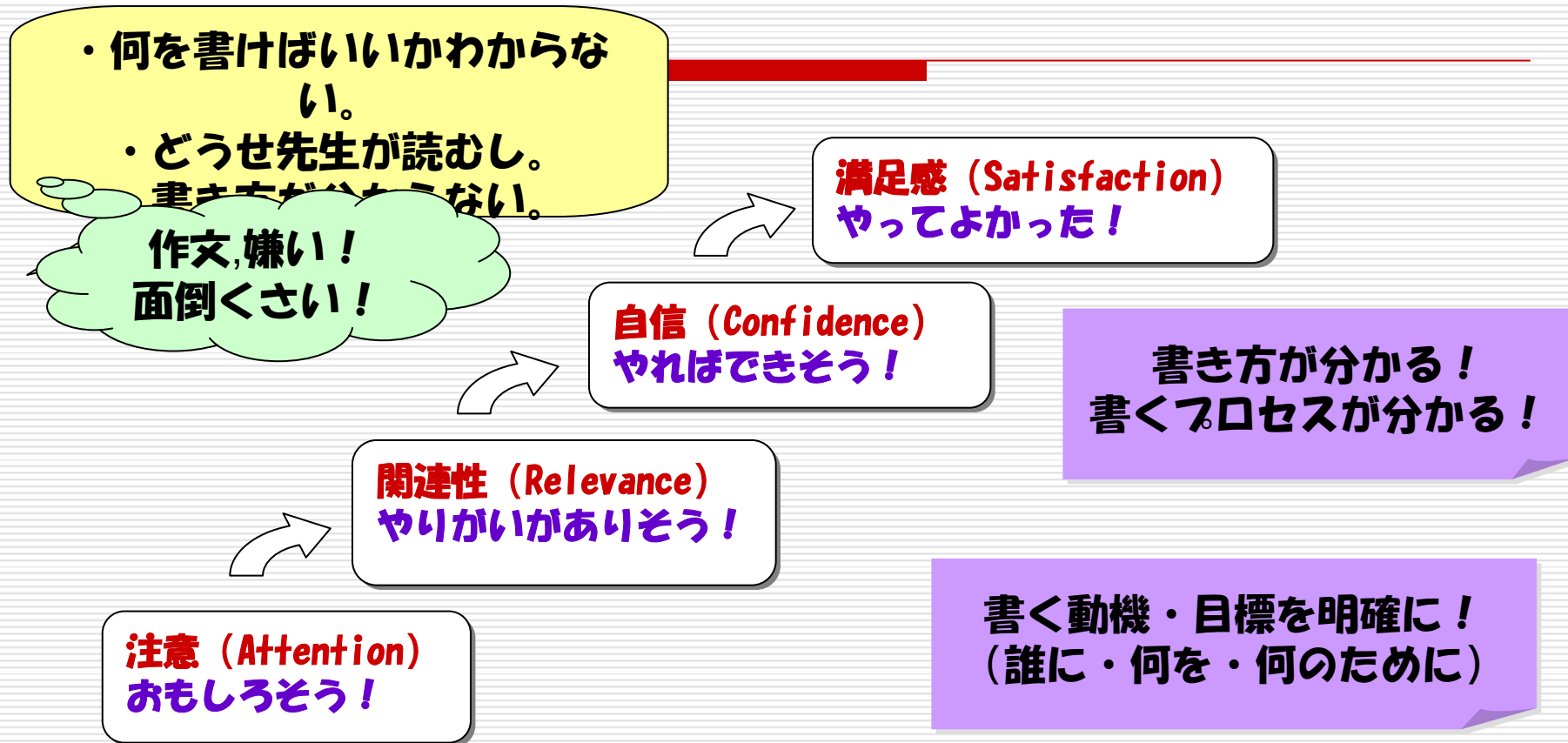
□ 活動例⑧ 初級後半から行える活動(1)

* 学習目標: 相談したいことを書いたり、アドバイスを
書きいりする

(3) コミュニケーションを大切にした「書く」活動

- みなさんの学習者のために、どのような書く練習(活動)を設定できますか。実際の読み手を思い浮かべながら、書かせることができますか。

“書くことが好きになる”仕組み（ARCSモデルから）



ARCSモデル (アークスモデル) 「やる気」を引き出すモデル
ケラー John, M, Keller (アメリカの教育工学者) による



この講義で考えたこと

- 「書くこと」の指導について、この講義を通して考えたことを話し合しましょう。



おわり

「書くこと」の指導をふり返るためのチェックポイント



- ①学習者が文脈の中で正しいかなや漢字を使えるように指導している。
- ②学習者が文章の目的やテーマに合ったことば、文法が使えるように指導している。
- ③学習者が書きことばの特徴を意識できるような活動を行っている。
- ④学習者が文と文のつながりや段落などの文章のまとまりを意識して文章を組み立てるような活動を行っている。
- ⑤学習者の関心や興味、学習の目的に合わせて、作文のテーマを選んでいる。
- ⑥学習者がいろいろな文章の種類(手紙、レポート)に必要な書き方や表現を意識できるように、多様な文章を書かせている。
- ⑦学習者が書くプロセスを意識できるように、フィードバックしたり、学習者同士で読み合う活動を取り入れている。

参考文献

- 李英淑(2008)「韓国の高校における作文授業の現状と改善案-済州外国語高等学校でのピア推敲活動を通して-」『日本言語文化研究会論集』第4号、国際交流基金日本語国際センター、国立国語研究所、政策研究大学院大学 pp.33-60.
<http://www3.grips.ac.jp/~jlc/files/ronshu2008/lee.pdf>
- 池田玲子・館岡洋子(2007)『ピアラーニング入門:創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房
- 金孝卿・来嶋洋美(2009)「Can-doを活用した作文活動のポートフォリオ評価の試み—実践と課題—」国際交流基金日本語国際センター20周年記念シンポジウム「JF日本語教育スタンダード—その活用と可能性—」(第15回海外日本語教育研究会) 報告http://www.jpfe.go.jp/j/urawa/j_rsorcs/standard/dl/15/4.pdf
- Bachman,L. (1990) Fundamental considerations in language testing. Oxford: Oxford Univ. Press.
- Canale,M. & M.Swain (1980) Theoretical bases of communicative approaches to second language Teaching and testing. Applied Linguistics1. pp.1-47
- Weigle. S. C (2002) Assessing Writing. Cambridge University Press.